

## 普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言、提言

### 1 普及指導活動の体制について

(課内の分担、関係機関との連携、普及指導員の資質向上の取組等を含む)

<p>取り組む課題が多岐にわたり複雑化するなかで、普及指導員の数が減少して、ひとり当たりの負担が増大しているように見受けられる。</p>
<p>農業の多面的機能の重視や六次産業化に対応した人員確保ができているか、対応する研修内容になっているか、改めて検証する必要があるのではないか。</p>
<p>課題に対して地域内で他組織との連携が図られているといえる。共通した課題に対して広域的な（県全体として）情報共有と経験蓄積が円滑にできる体制になっているか。</p>
<p>普及において人のつながりをつくるコーディネート機能が重要視されるようになったことは高く評価できる。具体的なノウハウはさらに詰めて行く必要があるのではないか。</p>
<p>普及指導体制については、普及戦略部を独立して新設し、普及活動の戦略的な推進を図る体制を構築したことは前進です。今後の農業のスマート化などの課題に向けての原動力として期待しています。また、技術指導部（グループ）の名称を技術経営指導部（グループ）と改称し、経営指導の強化を図ることを明示したことはこれからの指導の方向性を示す意味で評価できます。さらに、農業大学校における研修実施を強化する方向性を示すために、担い手研修科と改称したことも今後の期待が持てます。各新設・改称組織においては十分にその力を発揮されることを期待します。</p>
<p>年数をかけての取組であるのに次の担当者にきちんとバトンが渡されているのを感じ、普及員間での連携と信頼関係が築かれているのを感じた。</p> <p>関係機関とのつながりもよくとれている。</p>
<p>関係機関について</p> <p>市町村とかJAだけではなく、地元の各分野に精通した会社や団体と繋がり、地域のチームとして支援活動することなども考えられたらどうかと思います。例えば、農業への認知度UPに繋がるようなSNS配信サポート企業や一般市民・まちづくりに関心のある人たちが集まるボランティアセンターなどとのつながりなど、今までとは違った角度で支援体制を構築することに挑戦してほしいです。</p>

それぞれの地域の課題について、しっかりとした指導体制がとられていることがよく理解できました。特に普及活動においては、「現場の意向を十分にくむ」「関係機関と意識の共有を図る」「実証に足る予算を確保する」という生産者に寄り添った活動をされていることは、素晴らしいことです。引き続き、各地域の行政や生産者組合、JA との連携を図り、普及活動を続けていただくことを希望いたします。

JAグループとしても、JA営農指導員の減少や経験不足は非常に大きな課題として捉えています。

米麦大豆の生育予測システム「AgriLook」の活用を通じて、普及指導員との連携強化やJA営農指導員のスキルアップに取り組んでいきますので、今後ともよろしく申し上げます。また、他品目（露地野菜など）での開発も引き続きよろしく申し上げます。

## 2 普及指導活動の計画について（普及課題・対象の選定、目標設定等を含む）

県内の農業・農村が抱えている重要問題に、適切に対応した課題設定となっている。

目標については、数値に囚われない設定は高く評価できる。面積や収量、人数・戸数などの数値は、活動の結果としてみる方がよく、目的化しない方が良いと思われる。

対象の特性と実態を踏まえると、必ずしもジャストフィットしたとはいえない難しい部分も見受けられた。県全体で共通した課題、類似課題について普及計画について検討する機会があるとよいのではないかと。すでにあるなら進捗を確認し合い情報共有を活発に行うことができる体制強化が望まれる。

課題の設定や対象の選定については、その理由や根拠が（われわれ評価員には）示されていないため、今一つその妥当性が判断できません。例えば、その取り組みが愛知県の農業全体に与える効果や影響などを明示する必要があると思います。表現を変えれば、「選択と集中」ができていないのかを検証する必要がある、ということです。

伝統野菜産地のスマート農業への取組（レンコン）

収支はとんとんで、労働力が6%減とのこと。費用対効果について、現状は補助金をもらっての取り組み。試験的な意味合いがあることはわかるが、継続性を考えると、補助金なしでどうなのかという視点は、計画段階から考える必要があるのではないかと・・・。

課題については、農業者だけでなく、地域住民（消費者）へのアンテナも高くして取り組んでいただきたいと思います。

新規就農者の個別目標達成に向けては、導入部分においてしっかりと技術習得のためのセミナーが開催され、研修後には農業を継続できるようにしっかりと就農計画の作成の支援まで取り組まれていることは新規就農者にとってはとても心強い取組です。また、一番負担になるのが地域とのかかわりと考えますが、同業者との意見交換会も組まれており、とても評価できる取組と考えます。

今の時代にあった計画で、新規就農者、後継者、高齢の親世代が農業を続けていけるようにとすべてに繋がっていることが素晴らしいと思いました。

非常に産地の課題に寄り添い、対応されていることがよく分かりました。

一方で、普及戦略部を設置された目的でもあるように、県としての重点課題に取り組むことは非常に重要と感じます。農業イノベーションやスマート農業推進協議会、一体的支援プログラムなど多くのプロジェクトが走っているなか、どの品目のどの課題を解決すると成果が大きいかを踏まえた舵取りをお願いします。

### 3 普及指導活動の経過、実績及び成果について

課題についての問題構造の把握、現状分析を行ったうえで、現場に入っていることが理解できた。

一方で、対象とした経営や誘導できた人や経営についての経営構造や人的特性についての分析を強化すべき部分もあった。

発表にあった活動はしっかりとした成果をあげているといえる。そのなかで、うまく行った部分とそうではなかった部分についてしっかりと分析を行って、次年度につなげていくことが必要である。そういう意味では、成果の要因分析をもっと入れても良いのではないか。

今回の発表事例では、新品種の開発や新技術の適用といういわゆるハード面での内容ではなく、産地全体での取り組みの支援や担い手の育成といったソフト面での発表が多くみられました。今後重要となるテーマを先取りした形の活動であったと思います。この成果をつなげ、広げていくことが必要ですが、そのためには、他の地域でも活用できる形にまとめ上げ、パッケージ化した「マニュアル」を作成・配布することをルーティンとする仕組みを導入すべきだと思います。

普及指導活動については、目を見張る活動もあり、今後の新しい企画等も楽しみとなるような地域もありましたが、依然として従来の意識で行われているところもあり、指導員の研修を望みます

小ギクの植物成長調整剤を利用した、開花期の調整による需要期出荷の取組は、昨今の天候を考慮してもたいへん効果のある取組です。ただ、生産者は、根本的に生産手法に新しい技術の導入には慎重であるが、中心となる生産者を中心に目に見えるデータで取り組んでいったのは効果的な取組と考えます。今後も引き続きお願いします。

今回の発表例は、終わりのない活動だと思います。

サポーターの確保やスマート農業においては、労働時間が減少しても最近の資材の高騰により収入と支出のバランスを保つこと、また、自然相手の栽培の不安定等を考えるとまだまだ長い目で関わり、（生産者が）経営の安定を継続していけるようにサポートしていく必要があると思います。

栽培技術に関する指導だけでなく、新規就農者や労働力をどう確保するのかなど、非常に幅広く対応されており、成果も出ていると感じました。

#### 4 その他

入念な準備がなされている発表といえた。

課題に関わって、地域の農業構造、個別経営の構造と意向の把握・分析は普及活動の基礎となるので、時間をかけて広く情報共有しながら活動を進めて行って欲しい。

新技術や新品種の導入というよりも産地対応、地域対応に関する課題発表が多くなっている。そういう現実を踏まえると、（繰り返しになるが）コーディネート、コミュニケーションの能力が求められるので、普及の実践から参考となるテキストやプログラムを独自で開発することが必要になるのではないか。

人材育成においては、昨年、コンサルティングスキルを養成する研修を実施しました。これをさらに多くの皆さんが受講できるよう仕組みづくりをしていただきたいと思います。

また、目標設定のフォーム等を統一して誰が見てもわかりやすい形にすることで、素早く共通理解が図れるようにして、生産性を上げていくことも提案したいと思います。

3年この評価会議にかかわらせていただき、普及指導員の仕事をわずかながら拝見してきました。農業従事者と関係機関の調整に加え、農業の裾野を広げるためにも市民を巻き込むことが大切になっている中、犬山モモ栽培サポータークラブでの取組のように、農業の知識がない人にも分かるようにかみ砕いて説明するということが不可欠。新規就農してもやめてしまう人も少なくないという。ここでも、やはり、わかりやすくは大切だと考える。いずれにせよ、昨年の新城の事例にもあったが、農家の周りの市民に他人事ではなく関係していることだと理解してもらい、そんな指導員の活動に感心しました。

今回の取組では、最新のスマート農業の事例も紹介されました。

今後幅広い農業分野の活用が進んでいくと考えられますが、一番大切なことは、実際に生産する人の生き方だと思います。

しっかりとした人材の育成と行政からの支援が、今後も日本の農業を守っていくためにも大切な課題と考えます。よろしく願いいたします。

今回の事例のよい所を取り入れてそれぞれの普及課でも展開して欲しい。

農業関係だけでなく、農業に関心のある人たちに興味をもってもらえるような情報の発信が必要だと思いました。職員の方の一生懸命取り組んでいる姿が発表から垣間見えました。

## 5 地域農業の振興に向けて普及事業が取り組むべき活動内容等の提案

<p>農業・農村の理解のための消費者向けの活動（課題）の重要性が増しているのではないか。</p>
<p>新型コロナの経験を踏まえ、パンデミックが起こった場合の産地対応や対消費者対応などを考えることが重要ではないか。</p>
<p>最も大きなテーマは、「産地全体での取り組みへの支援」でしょう。そのために、どのようなテーマを選択し、どんな目標を定め、各生産者がどのように役割分担して進めていくかという「チーム活動」の支援を行うことが、普及活動の有用性と価値を高めることにつながると思います。これができるようになるためには、普及指導員のスキルアップなど、今までとは違った観点での育成が必要となります。ぜひ、計画して実施していただきたいと思います。</p>
<p>女性の働き手の育成・活用、起業促進。食農教育事業。</p>
<p>今後、農業を取り巻く環境は、気候の変動による災害、未知の病害虫の対応、生産者の減少や高齢化の進行等、厳しい話題ばかりです。若い人たちが、夢を持てるような、儲かる農業は、大事な要素だと考えます。</p>
<p>普及課の活動や農家との関わりあいの現状をよく理解していない農家にアプローチし、経営継続の手助けを行う取り組み。</p>
<p>女性農業者への活躍の場の提供。</p>
<p>みどりの食料システム戦略が示されるなど、化石燃料や化学肥料・農薬の削減が迫られており農家は非常に不安に感じています。生産コストや生産性など課題は多いですが、代替技術の開発に取り組む必要があると思います。</p>

## 6 評価会議について意見（普及事業全般含む）

現地調査は理解を深める良い機会となっている。できれば複数の事例をみたい。

今回の評価会議は、コロナ禍の中でリモートで行ったために様々なご苦勞があったことと思います。

個人的には、発表そのものは（リモートでも）十分うまくできたと思うのですが、やはりディスカッションは難しいと感じました。これは他の会議等でも同様ですので、リモート形式の弱点なのでしょうね。今回、われわれ評価員の質問は基本的に別室に移ってから行うという設定でしたので、会場全体での質問時間が短く限られておりました。この点については、次回は、基本的に「質疑応答は会場全体で行う」という形にしていた方が良いと思います。われわれ外部の評価員が選任されているのは、様々な異なった立場からこの事業を見て、意見を述べることで、幅広い視点を持つとういうねらいだと思います。であれば、会場に来た皆様にもそうした意見を聞いてもらうことが「なるほど、そういう考え方もあるのか」「そんな見方もあるのか」と様々な気づきを得る機会になりますので、ぜひ全員に参加してもらって、共有をしてもらえればと思います。ご検討ください。

今後農業の役割は、生産だけでなく、人を育てることに深く関わっていくのではないかと思います。

食べるという行為は、人が生きるためにとても大切なことです。よって、人々の特に子どもの心の成長には大きな役割を果たすのではないかと期待するところです。

是非今後も研修を重ね、農業者が、やりがい、生きがいを感じて多くの市民と出会える農業を目指していただきたいと思います。切に願います。

評価会議は、それぞれの立場により視点が異なり、1つの事業がさらに多方面に活動の場を広げることができるようにと導いてくれる提言が多くあり、意義深い会議だと思いました。

若い普及員に接することが多くありますが、どの方もよく動いてくださり、助言をくださったりと普及員のスキルアップがなされていると感じています。